

家庭菜園相談室

今月の
テーマ「おやつやおつまみとして愛される！
～落花生～」

「花が落ちて実が生まれる」ことから落花生と呼ばれるように、落花生の花が受粉すると、枯れた花の付け根から子房柄^{しほうへい}が地中に伸び、さやができます。落花生といえば、乾燥させ炒ったものを口にする人が多いですが、採れたての生落花生の塩ゆでは家庭菜園ならではの味わいですのでぜひご賞味ください。



作型目安

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
落花生		● — ●	-----	-----	-----	-----	■ ■ ■	■

● 種まき ----- 追肥・土寄せ ■ 収穫

栽培の
ポイント

- 種まき後は鳥よけネットがおすすめです。草丈が10%程度になれば鳥害は心配なくなります。
- 多日照を好み、15～25℃の気温でよく育ち、15℃以下では生育しなくなります。
- 子房柄が伸び地中にもぐって結実するので、本来は粘土質の畑は向かず、軽い火山灰土や砂質土が適しますので、水はけのよい所で作ります。
- 連作は避け、2～3年は栽培していない畑で栽培します。

畑の準備

落花生の好適土壌pHは6～6.5で酸性土壌を嫌います。種まきの2週間前に苦土石灰200g/m²をまき、深さ30%位までよく耕してください。種まきの1週間前には化成肥料(N:P:K=8-8-8)100g/m²を施し土とよく混ぜます。

畝作り

畝幅70%、畝高10～15%の畝を立てます。地温確保、雑草防止のためにマルチを張っても良いです。

種まき

種まき時期は、5月上旬～下旬頃です。種まき前に、直径5%深さ2～3%の種まき穴を約30%間隔に作ります。さやから子実(タネ)を皮付きのまま取り出し、1つの種まき穴に2～3粒まき、2～3%くらい覆土した後、水やりします。鳥害防止のため、本葉2枚になるまで防虫ネットや不織布で覆います。本葉2枚ほどで2株に、本葉3～4枚で1株に間引きします。

追肥・
土寄せ

開花が始まった頃に、化成肥料(N:P:K=8-8-8)30g/m²を施し、軽く耕してから根元に土寄せします。その後、子房柄が土に沢山もぐるようになったら(1回目の追肥から15～20日過ぎ)再度土寄せします。土が乾いたら適宜水やりします。マルチを張った場合は、開花が始まったマルチを除去し、追肥を行いましょ。

病虫害

ハダニ類、コガネムシ類幼虫などの害虫が発生するので早期発見・早期防除に努めます。コガネムシは種まき時にダイアジノン粒剤5などを土壌に混ぜ込んでおくとい良いでしょう。代表的な病害には、白絹病、褐斑病などがあります。早期防除に努めましょ。

収穫

10月中旬頃になると茎や葉が黄ばみ、一部下葉が枯れ始めたら試し掘りをし、さやに網目が出始めていたらさやがおおむね肥大したころなので、子実は多少未熟ですが収穫可能です。

その後、下葉の枯れが進むとさやの網目がはっきりし、子実は完熟してきますので、本格的に収穫します。この後の乾燥の工程を省略すると、塩ゆでで楽しむことができます。

完熟した株を収穫後、株を畑に逆さまに立てて数日間日干しをし、さやがカラカラと音がするようになったら乾燥が完了です。この時、鳥害にあわないように、ネットなどを被せましょ。その後、さやをとって水洗いし、再び天日乾燥させると長期保存ができます。時間をかけて乾燥させることで、渋みが抜け、風味と甘みが増します。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。